

# 働き方の変化

《ハイブリッドワークオフィス》の設計

 KUROGANE

# 働き方の 変化



コロナ禍で働き方が大きく変化する中、  
出社とリモートを組み合わせたハイブリッド  
ワークが新たな潮流として私たちの生活を  
一変させました。  
ワーカーは「いつ、なぜ、出社するのか」を  
問い、オフィスの在り方に抜本的な変化を  
求めています。

## ✓ 在宅などのリモートでの課題



DOWN

企業文化とのつながり



DOWN

ワークライフバランス



DOWN

生産性



UP

離職の可能性

## ✓ ワーカーがオフィスに望むモノ

出社頻度を高めるためには何が必要かと尋ねたところ、オフィスで仕事をしている人約34%の回答

### 「スペース」の改善

- 1 個人プライバシーの強化
- 2 固定席・自席
- 3 個人スペースの拡大
- 4 人間工学に基づいた個人用家具



### 「テクノロジー」の改善

- 1 より性能の良いデバイス
- 2 ビデオ会議ツール
- 3 双方向型コラボレーションディスプレイ
- 4 スペース予約システム



重要なのは、どこで働くかではなく、どのように働くのか。ワーカーは今、新たな働き方を可能にする何かを求めています。つまりワーカーは今までのように受身的な出社ではなく、「なぜ、オフィスに行くのか？」と問い始めています。例えば、**重要な会議がある、上司と対話する、生活音に邪魔されないで集中できる、などという出社理由があります。**現在、世界中の多くの企業がハイブリッド導入へのアプローチ方法を模索しており、変革に向けて積極的な戦略にシフトする企業もあれば、既存のオフィス戦略にとどまる企業、ハイブリッドワークが定着してから戦略を見直す企業など、その対応は企業によってもさまざまです。しかし、確かなことは、**ワーカーのニーズや価値観は確実に変化し、新たな働き方を可能にする「場」が早急に求められています。**

# 新たな働き方を可能にするオフィスでの4つの「スペース」提案



**Personal**  
パーソナルスペース



「個」と「チーム」の両ニーズを満たした多彩なスペースは「プライバシー」と「快適さ」の両方がバランスよく共存する。



**Collaboration**  
コラボレーションスペース



可動式の家具やツール、テクノロジーが、少人数/大人数での対面型と分散型の両チームをサポートする。



**Social**  
ソーシャルスペース



個人ワークと仲間との共有体験を慎重かつ柔軟に組み合わせ、コミュニケーションとしての一体感を形成する。



**Learning**  
ラーニングスペース



適応力の優れたテクノロジー統合型高性能スペースが対面型、分散型、両方のチーム学習の効果と質を高める。

# 最強の集中力を叶える「パーソナル」スペース

集中力が上がると、人は気分よく没頭しながら短時間で質の高い仕事をするとされています。成果を上げながらより多くの仕事をこなすには、どんな環境で仕事をするのが重要なポイントです。



Personal  
パーソナルスペース

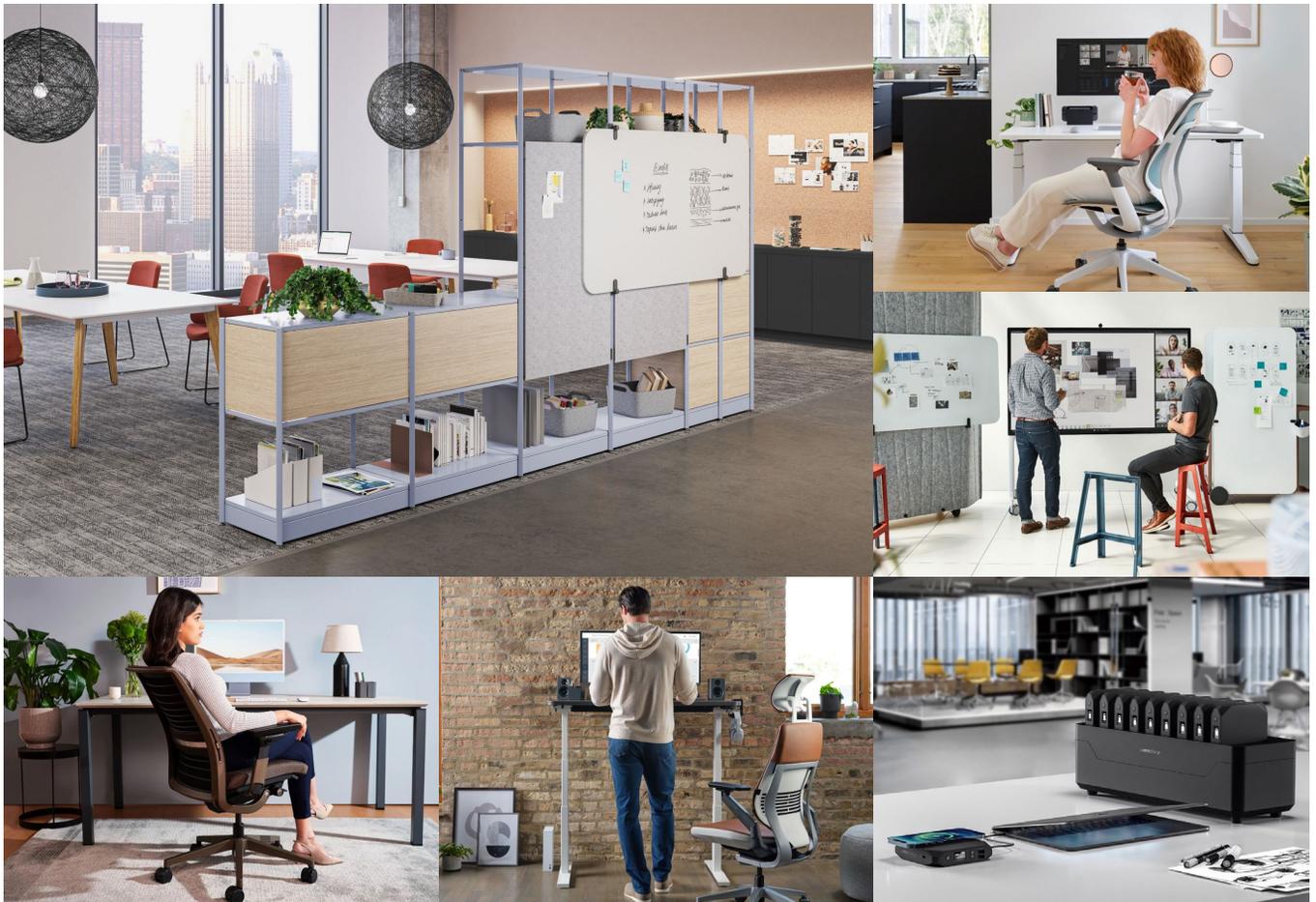


オフィスでもビデオ通話が日常化する中、開放的なオフィスは最適ではなく、成果を上げるオフィス環境とは？

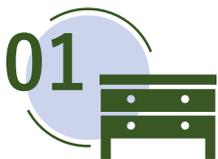


開放的なオフィスでの雑音と視覚的ノイズが集中を妨げ、分析的思考や創造性を妨げる要因になっています。

- ・1人での集中ワーク、極秘の通話、リフレッシュなどに応える「パーソナル」スペースが圧倒的に欠如しています。
- ・ビデオ通話の際の気の散る背景画面やプライバシーの欠如が集中力を妨げています。
- ・多くのスペースは、電源、照明、モニターなどビデオ通話に対応していません。
- ・情報漏洩対策を講じていないと社外秘・部外秘などのデリケートな通話やコンテンツ表示が困難になります。



## ✓ 《パーソナルスペースの設計》



### プライバシーレベルの異なる多彩なプライベート空間を配置する

個室型ブースやポッド、パネルや間仕切り機能を併せ持つ収納キャビネットなど。オープンな空間を区切ってプライバシーを確保する方法は、工夫次第で多彩です。背面利用が可能な多用途機能を備えた家具で限られたスペースを最大限に有効活用できます。



### 作業内容に合わせて座るチェアを選べる

共有スペースにはあらゆる体格の人に対応し、ほぼ操作なしで快適に座れるチェアを。固定席・自席スペースでは、体格や好みに合わせて自分仕様にピッタリとフィットする高度な調節機能を装備したチェアを選択できるようにしましょう。



### 固定席でもフリーアドレスでも、上下昇降デスクはオフィスの必需アイテムになる

フリーアドレスでのデスク共有のポイントはその「快適性」。固定席・自席での長時間に及ぶデスクワークでは、「姿勢を変えながら身体を動かすこと」を意識することが健康かつ仕事の成果につながります。



### ハイブリッドワークに適した照明計画を考える

ビデオ通話用タスク照明は、顔をくっきりと明るくするなどカメラ映りを良くすると同時に周囲も均一に照らします。柔らかな光を放つシェード付きテーブルランプが効果的です。



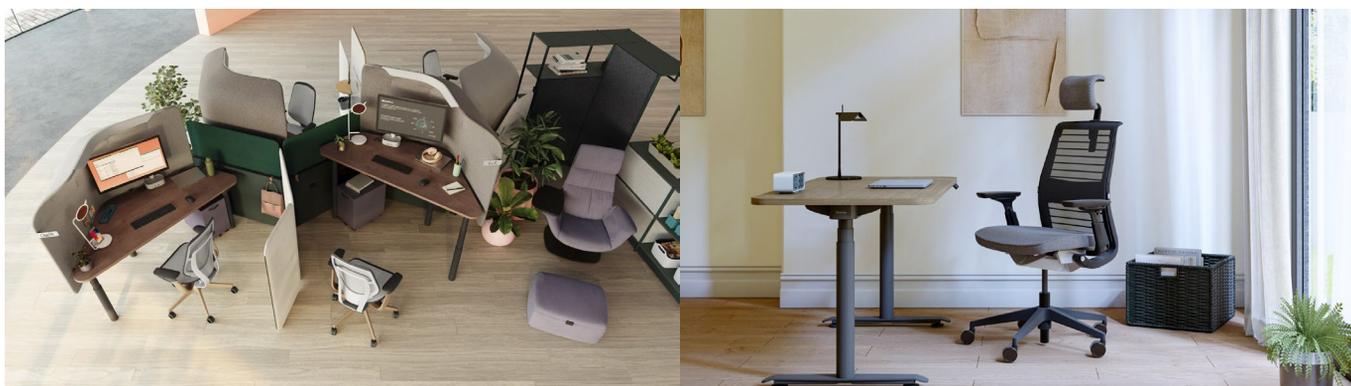
### モバイルモニターを活用すると、タスク間の切り替えやオンラインでのコンテンツ共有が容易になる

外付けカメラのオートフォーカス機能を利用すれば、顔やコンテンツをしっかりと写し出すことができます。



### モバイル電源により、充電を心配せずに仕事に集中できる

電源コンセントが標準装備されているパーソナルスペースに対して、共有スペースでは電源が少なく、後付け設置はコスト高なため、モバイル電源が役に立ちます。



# ハイブリッド・コラボレーションを機能させる



**Collaboration**  
コラボレーションスペース



Web会議をより人間味豊かなものにするにはどうすべきか？



現在、リアルとリモート両方の参加者が混在するハイブリッド会議やコラボレーションが浸透しつつある中、オフィスに集う意味とは何なのでしょう？ 活気で賑わう街がそうであるように、オフィスには人々を集わせる多彩な「場」、つまり、リアルとリモート両方の参加者を円滑につなぐ役割が求められています。

まずは、家具や照明、映像や音声がどう相互に関係しているかを把握して、空間設計や設備、IT をトータルで計画することでリアルとリモートのコミュニケーションはシームレスかつ円滑になります。



## 《ハイブリッドコラボレーションスペースの設計》

### 01

#### 全員がカメラの方を向くように空間のレイアウトを設計する

会議室の場合には、従来の長方形の部屋の縦（短い壁の方を向く）ではなく、横（長い壁の方を向く）に向きを変えることなどが挙げられます。また、円弧を描いて座るなど全員が公平にカメラの方を向くようにすると、両端の人も無理なく全員をカメラに収められます。互いに視線を合わせ、細かな表情も読み取ることで対話がスムーズになり、会議への集中力も増します。オープンな空間では、ハイバックチェアや間仕切り等を利用し、プライバシーも確保すること、また、配線コードをまとめるフックや私物を置ける収納スペース付き家具を使用すると身の回りをすっきりと整理できます。

### 02

#### 会議室では、テーブルを囲む全員が視認できるようにカメラを中央に配置する

カメラの視野角度に動線上の人や余分なものが映らないようにしましょう。ガラス壁の開放的な会議室では、ガラスにプライバシーフィルムを貼るなど情報漏洩などの対策を講じましょう。オープンな空間では、通路や隣接する同僚が視野角度に入らないようにカメラの位置を工夫すること。周囲のノイズや余分な動きが会議の邪魔になります。

### 03

#### 壁や天井に反射して拡散する残響音や反響音などを考慮し、明瞭な音声とプライバシーに重点を置く

吸音性という観点から、布張りの壁や間仕切り、チェアやカーペットなどが役立ちます。デバイスや機器の音声調節を利用したり、反対側に布張りの吸音性の高い間仕切りを配置することも効果を発揮します。騒がしい場所ではノイズ抑制機能付きのマイクを使用し、スピーカーの音量設定は「低」に設定。人との間に距離がある場合には、セカンダリーマイクを使用しましょう。

### 04

#### 照明は空間や人間、背景など多面的側面から計画する

多方向からの光で強い影が消えるような照明を心がけましょう。空間内の配色を薄めにするとう照明の配光がより適切になり、必要に応じて調光機能も役立ちます。ダウンライトは、ピンポイントで光を照らす集光タイプよりも広範囲に広がるように光を照らす拡散タイプの方が適しています。集光タイプが人の頭上に直接当たると顔に暗い影ができる場合がありますので注意してください。ウェブ会議用スペースには、シーンに合わせて照明モードを調節できるプログラム内蔵機器も検討しましょう。



従来の座り方



円弧を描いて座る



# 「ソーシャル」スペースが生産性を高める



Social  
ソーシャルスペース



無個性で退屈な場所をいかにワクワクする「場」へと  
転換させるか？



出社をして仕事を始める場所、そこがオフィスでの社会的インフラの重要スポットになりえます。出社、リモートに関係なく、社員の誰もがいつでも歓迎されていると感じられる「場」です。固定席の削減でオフィスでの働くシーンは様変わりしつつあります。これからのオフィス設計には、誰にも優しく温かく、「目的地」を持った多彩なスペースの間を素早くかつ快適に行き来できる仕掛けが求められます。

人との交流を通して、誰にも公平で快適、しかも一体感を感じさせるのは決して容易ではありません。  
個人やチーム、組織全体にメリットをもたらす環境構築が求められています。



## ✓ 《ソーシャルスペースの設計》

01



### 高度な実用性と機能性の家具を設置する

ハイブリッドな「ソーシャル」スペースには、リラックスした雰囲気に加え、双方向型モニター、可動式マーカーボード、高性能チェアなどが並び、従来以上に高度な実用性や機能性が不可欠な要素になります。ノートパソコンなどデバイス用のテーブルや充電のための電源はもちろん、1人での集中ワークのためにプライバシーを即座に確保できる第2のゾーンの設置も有効です。

02



### フレキシブルな運用ができる計画

出社人数が把握しにくく、オフィス全体が混んでいる場合には共有スペースとしても多用途使用ができるように柔軟に計画しましょう。

このように汎用性が高い「ソーシャル」スペースは、個人ワークやコラボレーション、小休止や対話などさまざまな活動を支える「場」としてスペースを最大限に活用できます。

03



### ソーシャルスペースを機能させる設計

人間は、他者と関わりたい（つながりたい）という本能的な社会的欲求を持ちながらも、時に他者と距離を置きたいという相反する欲求に駆られます。「ソーシャル」スペースを機能させるには、この両方をバランス良く満たすこと。そして、チェア背後を囲ったハイバック機能やプライバシーレベルを調節できる間仕切り、「座る」「腰掛ける」「横たわる」といったバリエーション豊かな姿勢を支えるチェアなどを配置し、集中ワークやコラボレーション、雑談といった1日の多彩な活動をサポートすることを念頭に置きましょう。加えて、十分な広さの作業面、電源や照明、自然を取り入れたバイオフィリックな要素を計画しましょう。





Learning  
ラーニングスペース



コロナ禍を契機にワーカーのモチベーションや意欲の低下、リモートでの学習の難しさから成長の鈍化をどう解決するか？

人間の仕事を奪うとささやかれるAI時代において、果たして人間の価値とは何なのでしょう？コンピュータにはできない人間だからこそ出来るスキルを開発することです。

コロナ禍前から「学習する組織」が注目され、職場でも業務の一環として他者と関わり合いながら学ぶ環境をサポートする動きが加速しました。しかし、コロナ禍を契機に社員のモチベーションや意欲の低下、リモートでの学習の難しさから個々の成長が鈍化するという問題が発生しています。質の高いオンライントレーニング教材は豊富にあるものの、オフィスというリアルでの雑談や偶発的に起こる会話が多くの「学び」の機会を与えているのも事実です。「テクノロジーの進展とグローバル化」という2つの力が、生涯現役で働くというメガトレンドを生み出しました。仕事に就くためだけに学ぶという今までの常識を超えて、生涯を通じて学び続けるというテーマが今、現実のものとなりつつあります。



## 「学習」は人材を定着させます。

実際には多くの企業は優秀な人材の流出に悩んでいます。社員を組織に定着させるには、仕事を通して社員がスキルや能力を習得し、成長できるような人材育成・教育プログラムに取り組むことが不可欠です。



## ✓ 《ラーニングスペースの設計》

01



### オフィス中が「学習の場」

これからの学習や研修は場所を限定しません。モバイル機器、可動式の家具やアナログツールを備えた高性能かつ機動力が高いスペースは、対面コミュニケーションを円滑にすると同時に、リアルとリモート両参加者に向けて最適な学習の「場」を提供します。

02



### 「学習」に制限をかけない

学習の機会とは会議やトレーニングへの参加だけにとどまりません。実験を奨励し、あいまいさや失敗を許容する文化をいかに組織全体に浸透させるかも学習の一貫です。責任を負わずに物事を試し、失敗から学習する組織づくりです。リスクをとっても安全だという心理的安全性が担保されているからこそ、失敗を恐れずに新たなことに挑戦する文化が育ちます。

03



### 「学習」を習慣化させる

企業のイノベーションと成長を加速させるには、社内での持続的な情報共有や互いに学び合う環境が鍵になります。人を相互に結びつけ、連携しながら創造性が発揮できるようにすることで、信頼関係が強固になり、学習に対する無意識な思考パターンを植えつけます。



Steelcase®  
AUTHORIZED DEALER



KUROGANE

人と環境にやさしい空間創造 ——  
株式会社くろがね工作所  
[www.kurogane-kks.co.jp](http://www.kurogane-kks.co.jp)

お問い合わせは各営業所までお願いします。

東 京 〒105-0014 東京都港区芝1-10-13 芝日景有楽ビル  
TEL. 03-5439-9111 / FAX. 03-5439-9115

札 幌 〒060-0001 札幌市中央区北一条西7丁目3 (北一条第一生命ビルディング)  
TEL. 011-281-2373 / FAX. 011-281-2367

名古屋 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目20-27 (御幸ビル)  
TEL. 052-253-6985 / FAX. 052-253-6986

大 阪 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-24 (大阪四ツ橋新町ビル)  
TEL. 06-6538-1012 / FAX. 06-6538-7434

福 岡 〒810-0012 福岡市中央区白金1丁目2-21 (Wビルディング渡辺通)  
TEL. 092-523-1440 / FAX. 092-523-1442